<table>
<tr><td colspan="5">高浜市誌編さん委員会（第２回）</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="4">平成３０年２月６日（火）午前１０時００分～１１時３０分</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="2">いきいき広場　会議室Ａ</td><td>傍聴人数</td><td>４名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">神谷純一【委員長】
曲田浩和【副委員長】
石原順二
石川伸
村松輝一
後藤恵理
宮田克弥
中川健二
尾崎ヒロミ
神谷坂敏</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">こども未来部　部長　中村孝徳
文化スポーツグループ　リーダー　鈴木明美
同　主任　日吉康浩</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">株式会社ぎょうせい　土屋和重</td></tr>
<tr><td>次　第</td><td colspan="4">１　委員長あいさつ
２　議題
(1)瓦シンポジウムについて【資料１】
(2)各部会活動報告・編集委員会討議内容【資料２】
(3)執筆内容・執筆分担(案)について【資料３】
３　その他
・「市誌編さんだより」の広報への掲載について
・「タカハマ！まるごと宝箱」との連携企画について</td></tr>
<tr><td>資　料</td><td colspan="4">その他　市誌編さんだより
その他　「タカハマ！まるごと宝箱」チラシ</td></tr>
</table>

平成２９年度高浜市誌編さん委員会【第２回】

平成３０年２月６日(火)

１．委員長あいさつ

【委員長】　曲田編集委員長を中心に、順調に調査が進んでいる。過去の市誌には掲載されていなかったことで、新たにわかってきたこともあるということなので、そういったことも今回の市誌には掲載していきたい。

事務局が市の広報を通じて定期的に情報提供をしていただいているが、今回の編さんでは、市民の皆さまに活動状況を含め、なるべく多くの情報を提供していきたいと考えている。ただ本を作ってそれで終わりという事業にはしたくない。

本日はいくつか議題が用意されているが、皆様のご意見をたくさん頂きたいと思っている。

２．議題

<u>（１）瓦シンポジウムについて</u>

＜事務局　資料１に基づき説明＞

【副委員長】　基調講演をお願いする宮川先生の専門分野は「風土文化産業論」である。風土と産業ということを三州地域の窯業を中心に考えられていて、これが論文に書かれていたのを見て、今回お願いしたらどうかという話になった。瓦というものを皆さんがどのようにお考えか、皆それぞれかと思う。順風満帆に産業が発展するとういうことは必ずしもないと思うが、今どのように瓦を受け止めて、過去を見て未来にどうつなげていくかということをこのシンポジウムで行っていきたい。1回きりのシンポジウムでどこまでできるかということもあるので、編集委員の中からは継続的にできないかという声も出ている。今回は基調講演、研究発表、パネルディスカッションというきちんとしたものだが、このような形以外でも市民の皆さんに研究成果を聞いていただく場が必要ではないかということで、なるべくそのような機会を作っていきたい。恐らく今回のような大規模なシンポジウムは次年度と、市誌を発行した年にできるかくらいかと思う。また、可能ならば外部資金をとって地域と行政と研究者とが一体化して何か行っていけないか。そのようなことも検討しながら、市の予算だけをあてにするのではなく、色々な形で資金調達をして活用したいと考えている。今のところその目途が立っているわけではないが、こういった方向性は打ち出しておきたい。なお、基調講演は決まっているが、研究発表はまだ具体的なことは検討中で、2名から１名に変更になるかもしれない。「瓦」がいいのか「窯業」がいいのか、これについても皆さんからもご意見があると思う。瓦と言っても様々な種類があるので、そのあたりも検討しながら、パネルディスカッションでは業界の方にもご協力いただきながら、会場と一体になって考えてみたい。

【委員】　新しい市誌が出来上がって市民がそれを活用することで、高浜市の商工業が

活性化し、まちが盛り上がるということを楽しみにしている。
　編さんの中で、やはり窯業・瓦を題材にしていただけることはありがたい。また、高浜は今現在、車産業もあり、名古屋のベッドタウンにもなりつつあるが、我々が守ってきた瓦のまちを未来につなげるという意味で、瓦に関するシンポジウムを行うということはありがたく思う。

【委員】　シンポジウムは、ある程度大きなストーリー性を持って取組んで欲しい。あらかじめこういう方向に持っていくというものがないと心配。

【委員】　先ほど事務局から、会場からの意見も聞きながらという話が出ていたが、それはなかなか難しくて、ストーリーや議論の持って行き方等に関してはあらかじめよく検討しておかないといけない。

【副委員長】　ストーリー等についてはまた改めてご相談させていただくとして、このようなシンポジウムを開催するということをまずはここでご承認いただきたい。
　先ほどこれからも続けていきたいというお話をしたが、それを思ったのは、最近の瓦は若い人職人さんたちが精力的に活動され、いわゆる屋根瓦ではなくてデザイン性の高い作品を制作したり、若い女性の職人さんが自分の感性でアクセサリーを作ったりという様なこともあり、そういう方々にも話を聞いた方が良いのではと思っている。今後の窯業の可能性を考えると、これまでのことを守りつつ、新しいことをやっていかなくてはいけない。その折り合いをどうつけるかという問題もあると思うが、その辺は実際に組合長さんとも話をしながら進めていきたい。なので、様々なテーマを設定しながら、継続して続けていきたいということである。これまで瓦業界に関しては、名古屋市立大学が聞き書きをしたものがあり、来年の生活誌部会の方針として、窯業についてまだ話を聞けてない人たちから話を聞いていく。なので、次年度に関してはこういった調査成果もふまえながらストーリー等を考えていこうと思う。できれば、歴史に関して新しい成果を紹介しつつ、これをどのように発展させていけばいいかという話も入れたいので、こういった話の方向性については組合の方や商工会の方などと話をしていきながらストーリーを考えたい。また、シンポジウムの最後には、今後も継続して企画していく計画があるので今後も是非ご参加くださいと呼びかけ、幅広くご参加いただけるように呼びかけていきたい。
　自分がなぜこのように思ったかというと、聞き書きの調査を行っている中で「市誌編さんの調査だから協力した」「市誌の調査でなければ協力していない」という声を聞いた。これはこの事業の重みであると思う。過去の話というのは必ずしもいい話ばかりではないと思うが、そのような中でも重い口を開いてくださり、「市誌であるから話をします」という方がいる。なので、シンポジウムでは市民の方に調査成果を聞いていただ

くだけではなく、この企画自体が調査の一環というような位置づけでいきたい。

【委員】　次年度のシンポジウムのテーマが何かということは別にして、市誌を編さんすると同時に継続的な活動を行っていくことは非常に良いことだと思う。また、多くの高浜の方は「瓦」は自分たちのソウル的なものだという意思があるかと思うが、そこにエッセンスとして「生活」というものを入れるべきだと思う。

<u>（２）各部会活動報告・編集委員会討議内容</u>

＜事務局　資料２に基づき説明＞

【委員】　多くの調査活動をされていて、編集委員の皆さんには本当に頭が下がる。瓦シンポジウムが市誌編さんの中間発表的な要素があるということなので、できるならその時点の調査の成果を、シンポジウムで市民の皆さんにお見せできるといいと思う。例えば、郷土資料館資料の棚卸しを行って、こういう資料が出てきたというのを見せてもらえるとありがたい。実物を全て並べるのは難しいと思うが、見せる工夫をしていただけると良いかと思う。

【委員】　聞き書きに中高生が参加しているが、現状はただその場にいて写真を撮っているだけである。それでは中高生を巻き込んだことにはならないのではないか素朴な質問でもいいので、少しは用意してくるようにした方が良いと思う。高浜に関して興味を持ってくれることは嬉しいのだが、もっと積極的に関わってほしい。

　高浜の瓦関係の写真はたくさんあるが、それ以外の写真も郷土資料館から多く出てきているので、そういった写真パネルもシンポジウムの際に展示した方が良いと思う。

【委員】　聞き書きは、実際に活動している人たちの話を聞くということで非常に良いことだと思う。その場で質問するのは、中高生にとっては難しいかもしれない。実際に行っているかとは思うが、この活動を意味あるものにするために、事前の調査や打ち合わせがあるといいと思う。大学生になると、その場で質問などを考えることができると思うが、中高生だとやれないことはないと思うが、その場に参加することで興味関心を高めることにつながると思う。

【委員】　編集委員会の議事録に、県外調査を実施するという内容がある。具体的にどんな情報があって、こういう動きをするということを少し知りたい。また、高浜の情報が県外にあるというのは、事務局からの提供なのか、編集委員さんからの提供なのか。

【事務局】　現在のところ県外調査は、先史・古代・中世部会は和歌山県、近世・近代・現代部会は長野県と三重県、文化財部会は広島県が候補に挙がっている。和歌山県には、

高浜・吉浜・高取という地名が確認できる最古の古文書がある。長野県と三重県は、瓦の流通や職人さんの同行を探るうえで重要な地域であり、資料調査をぜひ実施したいと考えている。広島県には人造石を用いた遺構の資料が残されているという情報があるので候補として挙がっている。これら以外にも資料の情報は様々だが、もちろん事務局が持っている情報もあるが、編集委員の先生方が調査されたり、ご自分でお持ちの資料から情報を提供いただくことが多い。

【委員】　過去の市誌を編さんした時は、編さん委員が自分たちの足で資料を集めて作ったと思うが、その頃は研究者の方は入っていなかったように思う。地元の郷土史家の方たちが色々な情報を集めてきて作った。今回はそのような動きがあまりないので大丈夫かと思う。編集委員の先生方にお任せで、我々は何も関わらなくていいのか。聞き書き等には協力しているが、自分たちで何か面白いものを探してきたり、抜け落ちてはいけないことを自分たちで探してきたりすることが全くないのが心配。

　また、市誌の本編には入らない内容、別冊みたいな形でもまとめて発行残して欲しい。出てきた情報を見える形で残して欲しい。

【事務局】　別冊ということに関しては『新編高浜市誌「高浜のあゆみ」資料』として、定期的に発行していく予定である。今年度はその第１冊として、生活誌部会が行った聞き書きの成果が収録されたものを発行する。

【副委員長】　今の話は非常に大事な話で、なるべく市誌を市民の皆さんと一緒に作っていきたいというのがある。他市の市史編さんは、研究者が自分たちの領域を守りながら自分たちでやっていくというところがある。高浜市はそうではなくて、市民の方々と繋がりながらという形。この事業に対する市民の関わり方の形は様々ある。難しいとは思うが遠慮せずに皆さんからどんどん資料等を提供していただきたい。時間と予算が限られているので、先ほど言われたように本編に掲載できなかった内容などは違う形で残すことは大切である。

【委員】　皆さんのお話を色々聞かせてもらって、市誌を作るに当って全国に散らばっている資料を集めたり、今を生きている方の生の声を聴ける「聞き書き」の取り組みは大変素晴らしいことだと思う。自分も昔母から、高浜に嫁いで来た時に洗濯物を干したら煙で真っ黒になったとか、油断をするとタンスの中まで黒くなったといったいう話を聞いたことがあるが、今聞いておくということが大変重要だと思う。また、集めた資料は皆に見てもらわないと活きないと思うので、本編に掲載しきれない内容を別冊でまとめて次の世代の人たちに残していくということも大切だと思う。

【委員】　膨大な資料を子どもたちが直接見る機会というのはあまり想像できないが、出版物として１冊にまとまることで、子どもたちにも見てもらえる機会が増えると思うので、是非がんばって作っていただきたい。

【委員】　現在、郷土資料館のアルバムやネガフィルムを調査していて、過去の高浜の様子を知り得る写真が数多くあるので、それを展示する機会を設けたり、市誌の中に入れ込んでもらえればと思う。

<u>（３）執筆内容・執筆分担(案)について</u>

＜事務局　資料３に基づき説明＞

【副委員長】　１冊のなかで網羅的に記述するのはなかなか難しいので、より深くというところは別冊資料でカバーしていきたいと考えている。過去に発行された高浜町誌・高浜市誌は、掲載されている内容は市民にとって非常に重要なことが多いのだが、なかなか手に取ってもらいにくかった。なので今回作る新しい市誌は、手に取ってもらいやすいものにすべきという声が以前の編さん委員会でも上がった。その工夫の一つとして、基本的には見開きで内容が完結していくような形にしたい。２ページの見開きを単位として、もちろん４ページ、６ページになる内容もあるかとは思うが、そういった形にしていけば読み手としては区切りがはっきりしてわかりやすいのではと思う。過去の町誌･市誌を活かしつつも、まずは皆さんに見てもらえる、これを読めば高浜市の概括がわかるというような作りにしたい。こういったことを伝えるために、本の冒頭で私が、こう捉えるとわかりやすいということを一筆させてもらって、そこを先ず読んでもらってから内容に入ってもらうという形にしたい。

　内容的なことでは、できる限り「未来への展望」を表現したいという市の方針を伺いながら、「大家族たかはま･福祉でまちづくり」を軸にというところを振り返りながら、未来を見据えていくということで最後を締めくくりたい。また、このまちにとって「産業」も重要なキーワードとなるので、歴史的にみて産業がこのまちの軸になってきたという流れの方向性はこれまでと変わっていない。

　膨大な資料が発掘されつつあるのでその中で考えるということと、高浜･吉浜・高取ではそれぞれ地域によって性格が違うので、そのバランスもとっていかなくてはならないと思う。幸いなことに、郷土資料館には以前から高浜村と高取村の文書が残っていて、吉浜村の文書も今年度、市内から発見された。これで近代の軸となるような町役場･村役場に関わるような文書が、全てではないが揃ったので、これを軸に考えることができると思っている。そういう意味では、この委員会でもご意見をいただいた「地域のバランスを考えながら」ということができるかと思う。

【委員】　第３編第２節「村の様相」のところで、村の三つの並びが少し気になるのだが、吉浜より高取を前に出しているのは何か意味があるのか。現在の小学校区では港・翼は後だが、高浜・吉浜・高取という並びになる。他の項目ではそうなっているので、全体を合わせるべき。

【委員】　かつて衣浦湾を埋め立てて八号地・十号地を作って、昭和４０年頃から木材コンビナートができて、それ以降は自動車産業等に形態が変わってくるが、この流れは入れるようにしてほしい。

【副委員長】　第１編は、これが現在のまちだということがわかるように、基本的な事項を記述していただく。基本的なことをまずわかってもらってから歴史を見ていく方が良いので。

【委員】　編、章、節のタイトルについて、第４編のような堅すぎない書き方になっていくことを期待している。全部がそのようだと少しくどいかと思うが、所々「こういうまちをつくりたい」「こういう高浜にしたい」というのが言葉として出てくると「内容を見てみようか」という気持ちが出てくると思う。第４編１０章、１１章なども、タイトルから内容にこめた想いが伝わってくるように思える。例えば産業や文化にしても「伝統産業を活かしたまちづくり」とか「自然を活かしたまちづくり」とか、そういうタイトルが所々に出てくるといいと思う。市民の主体性が伝わってくる感じがする。

３．その他
＜事務局　資料に基づき説明＞
＜委員の任期更新について説明＞
＜次回の日程は後日改めて調整＞

【副委員長】　どうしても編さんが終わった後のことが気がかりで、是非とも完成した市誌を活かすということを考えていただくことをお願いしたい。また、せっかく集めた資料をどうするのかという点もそうであるし、郷土資料館も随分整理されたとはいえ、まだまだな部分もあるので、郷土資料館やかわら美術館を活用しつつ、文化財保護委員会でも、どういう形で市誌編さんで培ったものを継続していけばいいかということを是非お考えいただきたい。一度この委員会で、今後の方針や計画を事務局から提案いただきたい。それに対して、編さん委員のみなさんからご意見を伺いながら、どうしていくのが良いかを市として考えてもらいたいと思う。これは今日ということではなくて、どこかの回で、これから先どういうかたちで文化財の保存・活用を進めていくかの方向性を出していただければと思う。